平成３０年度　　高山市政クラブ視察報告

視察期間：平成３０年１０月１０日（水）～１０月１２日（金）

視察先　：１０日：岩手県奥州市　奥州市役所
　　１１日：岩手県釜石市　岩手沿岸南部クリーンセンター
　　釜石市民ホール、鵜住居小学校
　　１２日：岩手県奥州市　ＪＡ江刺・大地活力センター

参加者　：渡辺　甚一、松葉　晴彦、北村　征男、沼津　光夫、西田　稔、榎　隆司

１　視察日　　平成３０年１０月１０日（水）

２　視察先　　岩手県奥州市役所　総務企画部元気戦略室

３　視察の目的

奥州市内には、江刺りんごや前沢牛・いわて奥州牛、江刺金札米などのブランド力が高い良質な農畜産物の一大生産地があるが、ブランド農畜産物は知られているが、それが奥州市の農畜産物であるという認識がなされていないという課題の対策、そして基幹産業が「農業」であることから、農業が活力ある発展に寄与すること等から「地域６次産業化ビジョン」を策定され、農業を基軸とした地域ぐるみの産業振興に取り組んでいる奥州市に訪れて研修を行った。

４　奥州の取り組み内容

（１）ビジョン策定の目的

基幹産業が「農業」であり、精神的支柱となって地域を支えている。農業の元気が奥州市の活力ある発展に寄与している。平成２６年度から平成２８年度までの３年間「第１次地域６次産業化ビジョン」を策定し産業振興に取り組んできた。市内には、優良な市産農畜産物を活かして新たな特産物を生み出そうとする企業や飲食店があり、農業を基軸とした地域ぐるみの産業振興の取り組み事業等の質を高めることにより奥州市が大きく発展する可能性がある。

全ての市民は、生産者・労働者であると同時に、農畜産物等の消費者でもあり、地域の経済活動においてお互いに依存しており、バランスのとれた産業構造をめざす必要がある。農業の発展が地域経済循環を基本として、地域一体的な地域振興・産業振興にさらに取り組むため「第２次奥州市地域６次産業化ビジョン（平成２９年度から平成３１年度）」を策定。

（２）ビジョンの位置付け

奥州市総合計画基本構想に掲げる都市像「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち奥州市」の実現に向け、必要となる施策や事業を部門別に体系化した「奥州市総合計画前期基本計画」を上位計画とし、人口ビジョンを踏まえ策定した「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標とする「安定した雇用と新しい産業の創出」の基本的施策「農・商・工・伝統工芸産業等の産業基盤の強化と新産業の創出」等と連携する。

（３）第１次地域６次産業化ビジョンの概要

単に農畜産物を利用し新商品を作ることだけでなく、農畜産物を育てる人の魅力、作物のストーリーなどのこだわりを伝えることによって農畜産物や加工品の付加価値を高めることと併せ奥州市の知名度を高めていくこと、そのビジョンの理念を「食の黄金文化・奥州」とした。これは、地域イメージ・実体を表しているもので、多種多様で魅力的な本物の地域資源を地域ぐるみの産業連関によって磨きをかけ全国に発信し知名度を高めるものです。推進のため、「う米！　きれい田！　行きた稲！」の基本方針を定め、「うまい」は地域資源をより魅力的に、「きれいだ」は資源が育まれる環境を守り育て、「行きたいね」は奥州市をより売り込み誘客するための方針とし、３つの基本方針には、合わせて１０の施策体系を定め、それぞれの施策体系毎に目標を定め、取り組みを実施。また、地域６次産業化の取り組みを力強く推進するため、推進体制の強化（推進チームの設置）にも取り組んだ。

（４）１０の施策

① 食の黄金文化・奥州提案モデル事業補助金（フォローアップ支援事業）
・ビジョンに合致し、農林畜産業の振興及び「食の黄金文化・奥州」の実現に資すると認められる「アイデアを活かしたモデルとなる」事業への補助

② 地域６次産業化出前個別相談

③ う米（うまい）のおうしゅう食の黄金店認定事業
・市産米１００％、市産食材を全体の食材使用量の５０％以上使っていることなどの要件を満たす飲食店を認定

④ 食の黄金文化・奥州料理コンクール
・市産食材のアピールと、併せて料理人を目指す市内の調理系学校の生徒や若手料理人の育成などが目的

⑤ 奥州食の黄金文化祭　～おやつフェスティバル～

⑥ おうしゅう旅浪漫ＨＰの充実（地域特産物販売促進サイトの開設）

⑦ 食の黄金文化情報（ＰＶ）発信
・奥州市出身の大リーガー：大谷翔平選手も参加した動画を作成。

⑧ 食の黄金文化・奥州輝かせ隊による情報発信（ブログ・facebook）

⑨ いわて銀河プラザでのイベント

⑩ 食の黄金文化首都圏でのＰＲ活動
・ＴＶ番組のロケを誘致等

（５）取り組みによる成果

・実施しなければ市の現状を理解できなかった事業（伝統作物調査）
・実施事業の検証を経て発展的に変遷した事業（いわて銀河プラザ）
・事業に関わる方々の意識を高めた事業（食の黄金店、おやつフェス）
・集客効果が大きく広く奥州市をＰＲできた事業（おやつフェス）

（６）課題

・成果が見えにくい。数値が繋がらない
・黄金プロジェクトが多く効果的な取り組みができない
・６次産業に取り組む生産者等が少ない

（７）目指す方向性

① 国の施策等の変化に順応し、さらに農業を基軸に挑戦しようとする者を増加させ、現状よりも高付加価値化を実現させる取り組みの推進（産業振興）
② 奥州市が優良な農畜産物の産地であるという理解の促進と奥州市の知名度向上による「奥州市ブランド」の創出（シティプロモーション）

（８）今後の取り組み

① 食の黄金文化・奥州提案モデル事業補助金
② う米のおうしゅう食の黄金店認定制度
③ 食の黄金文化・奥州料理コンクール
④ 補助金交付者等へのフォローアップ支援
⑤ 奥州食の黄金文化祭
～おやつフェスティバル～
⑥ おうしゅう旅浪漫ＨＰの充実
⑦ 食の黄金文化情報（ＰＶ）発信
⑧ いわて銀河プラザでのイベント
⑨ 食の黄金文化首都圏でのＰＲ活動
⑩ 食の黄金文化・奥州おみあげパンフの作成

５　考察

高山市は現在観光中心であるが、観光客の動向の変化は予想できないものである。食文化をみると、飛騨牛・飛騨リンゴ・トマト等知られているし、飛騨牛ステーキ・みだらし団子・高山ラーメン・ほうば味噌・漬物ステーキ等々有名であるが、地域６次産業化ビジョンについて考えると弱いとこがある。奥州市で取組んでいる「食」に対する施策は、「米コン」でも証明された「飛騨の米」の美味しさを活かせるものと感じた。民間チーム員、市職員、コーディネーターで構成する「地域６次産業化ビジョン策定チーム」の設置は、民間と行政が連携したもので地域おこしには必要であるし地域振興の期待ができる。

奥州市の取り組みは、食文化の繋がりから担い手対策や食育、地産地消にも積極的に取り組み、地域農業のより一層の発展と豊かな地域社会が実現できるものである。行政も、地域産業が元気になるための施策を検討される「元気戦略室」を設置され全体で何ができるのかを検討し情報共有しているのも、今後、高山市も検討してはと考える。

１　視察日　　平成３０年１０月１１日（木）

２　視察先１　　岩手県釜石市
　　岩手沿岸南部広域環境組合及びクリーンセンター）

３　視察の目的

広域による地域の連携と鉄などを溶かす技術の先進的な鉄鋼の町である釜石市にあるごみ処理方式の溶融炉と余熱を利用した発電を視察した。

４　視察の内容

「岩手沿岸南部広域環境組合」

構成　①釜石市　②大船渡市　③陸前高田市
　　④大槌町　⑤住田町

設立　平成 18 年４月 14 日

「岩手沿岸南部クリーンセンター」

建設事業費　96 億 700 万円
敷地面積　21.148m2　　建築面積　4.908m2
処理方式　シャフト炉式ガス化溶融炉
規　　模　147t/日（73.5t/日×２基）
余熱利用　蒸気タービン発電（2.450ｋｗ）

５　施設の特徴

*溶融炉で可燃ごみ・粗大ごみ・多様なごみの安定な処理。
*全連続運転で発生した熱分解ガスは、燃焼室で完全燃焼させ、ろ過式集塵器を通して清浄化、飛灰は薬剤で安定無害化。
排ガス中の有害物質は国の基準値を大きく下回る組合の基準を設定しており、（硫黄酸化物 1/68・窒素酸化物 1/2・塩化水素 1/5・ばいじん 1/4）１時間ごとのリアルタイムでモニター公表。
*搬入ごみの分別と溶融物のスラグ（アスファルトやブロック等の骨材）・メタル（重機などのウエート等）再資源化により、最終処分場の延命化。
*熱エネルギーの回収により、場内の給湯で浴場の無料開放
（年間２２．０００人）と発電は施設の照明・動力に活用、余剰電力は電力会社に売電（１．０００kw）。

６　課題

溶融炉はごみを高温で溶かしてガス化をし、燃焼させる。燃料のコークスは年間１．６００t 必要であり、維持費は、年間８億円と売電により年間 8.000 万円あるとはいえ、広域人口 108.000 人では負担後大きく課題と考える。

７　考察

高山市においては、現在稼働しているごみ処理場は 100t/日の規模でストーカ方式となっており、年間維持費は 1 億円となっている。新ごみ処理場の計画では、90t/日と少し規模が小さくなることにより 10t/日減ることで、国の環境基準が、10 倍に上がる。そうした中では、国の基準を大きくして回る、高山市の環境基準を設定して、地域住民に安心していただく必要がある。また、地域住民が集まれる施設が必要と感じられる中では、熱エネルギーを利用した温浴施設や発電などの計画も協議していかなければならない。

８　視察先２

. 釜石市民ホール　KAMAISI CIVIC HALL(英語表記)

愛　称　「TETTO」(テット)

指定管理　　釜石まちづくり株式会社

竣　工　　平成 29 年 10 月 31 日

敷地面積　　5.293.59m2

延べ床面積　　6.955.85m2

建築費　　57 億円

収容　　A ホール(1.215 名)　B ホール(218 名)

その他　屋根つき屋外では、内部ロビーと一体にしてイベントホールになる

９　視察先２の考察

釜石市民ホールでは人が集まりやすいように、近隣には大手大型ショッピングセンターがオープンしており。まちの拠点となっている。

高山市においては、市民文化会館の老朽化に伴い、建て替えの要望が市民から多く寄せられ、駅西地域の広範囲での方向性が望まれる。イベントなどでは駅からの移動の流れや駐車場周辺の渋滞緩和も検討していかなければならない。

10　視察先３

. 釜石市立鵜住居小学校・釜石東中学校鵜住居地区にあった小学校は RC3 階建て・中学校 RC４階建てが臨海にあり、東日本大震災で津波が３階まで押し寄せ、中学校は全壊した。幸いにも生徒たちは山沿いにある道路を上って難を逃れた。

釜石復興まちづくり基本計画により、２０１７年３月に鵜住居地区の中心部の高台に、幼稚園・小学校・中学校を集合させた地域の防災拠点としての位置づけで再興された。住宅地も少しずつ家が建てられ、JR 山田線の鵜住居駅も完成間もなく、列車のテスト運行がされている。また、小学校・中学校跡地は埋め上げられて、２０１９年に行われる「ラグビー・ワールドカップ」の会場として完成したところである。

１１　視察先３の考察

復興予算で多くの施設が整備され次々と完成されていく、ホテルも建築関係の工夫たちが多く町全体がにぎわっているが、工事が終わって工事関係者等が減るなど、人口３４．０００人の釜石市にとって、施設の維持費が財政を圧迫する懸念を感じた。

１　視察日　　平成３０年１０月１２日（金）

２　視察先　　岩手県奥州市　ＪＡ江刺・大地活力センター

３　視察の目的

水田及び転作田への堆肥施用の実状として、堆肥処理対策について「堆肥センター優良事例」として紹介されモデル事例であるＪＡ江刺・大地活力センターに行き、堆肥の作り方や利用等について研修を行った。

４　ＪＡ江刺の概況

（１）位置付け

１９８２年に旧江刺市内における７つの農業協同組合（岩谷堂・愛宕・田原・藤里・玉里・稲瀬・旧江刺市農協）が大同合併して設立。

西は北上川流域に拓けた平坦地から、東は北山系と連なる地形を呈し、標高３５メートルから種山高原の８７０メートルまで３６２．５キロ平方メートルに及ぶ自然条件に恵まれた豊饒の大地を有している。温暖な気候は当地区の基幹産業である農業にもっとも適しており、豊かな自然と肥沃な大地、先人の優れた取り組みのもとに、「江刺金札米」「江刺牛」「江刺りんご」「江刺野菜」のブランドを確立してきた。この４本柱の農畜産物を組み合わせた複合型農業が江刺農業の特徴である。また、担い手対策や食育、地産地消にも積極的に取り組み、地域農業のより一層の発展と豊かな地域社会の実現を目指している。

（２）組合の構成（平成２８年３月３１日現在）

① 組合員　　６，０２７人　　正組合員　４，３３３人

（個人：４，２９１人）

（法人：　　４２人）

准組合員　１，６９４人

（個人：１，６２３人）

（法人：　　７１人）

② 組合員組織　　農家組合協議会　　４，３３３人
　　青年・女性組織　　ＪＡ青年部　　２３３人
　　ＪＡ女性部　４，１３６人

（３）生産組織

・稲作部会	２，７２３人	・ホップ部会	１２人
・水稲採種部会	６６人	・和牛部会	４３１人
・大豆部会	４５人	・肉牛部会	９人
・野菜部会	２８８人	・酪農部会	７人
・りんご部会	１１７人	・和牛ヘルパー部会	７９人
・きのこ部会	２１人		

（４）江刺牛の現状

地区内で生産された子牛を「陸中牛」、肉牛は「江刺牛」のブランドで販売。肉にランク付けする」ＡＢＣの３ランクにおいて５～１等級の１５通りがあり、江刺牛は上位等級にあたるＡ・Ｂランク５～４級のみ「江刺牛」として首都圏などへ上質の牛肉として販売。

（５）大地活力センターの取り組み

畜産農家から出される排泄物も持ち込み処理をし、稲作や野菜、果樹栽培等に活用され、有機投入による生産体制を確立している。

（６）キャトルセンターの取り組み

生産者より母牛、子牛を預かり管理育成をしている。母牛は飼養にかかる労働コストの軽減を図ること及び分娩後の早期授精により回転率を上げ、生産性を高めるものである。子牛については高品質の飼育素牛、繁殖素牛を生産することを目的としている。

５　大地活力センター（堆肥センター）の概況

（１）設置目的

江刺地区の基幹産業は農業であり、恵まれた自然立地を背景とし、米、牛、りんご、野菜を中心とした複合農業経営（江刺型農業）を展開。この４本柱を中心に高品質農畜産物の生産の安定・拡大に努めてきたが、農業者の高齢化、担い手・後継者不足により地域活力が低下し耕作放棄地や遊休農地の増加、無家畜農家も増えて農地の荒廃や有機質肥料の投入不足による地力の衰えが見え始め、農業生産の減少に繋がってきた。また、家畜排泄物法の施行を期に、有畜農家における堆肥処理等、環境問題も発生。これらの解決に向け、経営体の育成や生産経費の縮減はもとより、農業の源は土が基本という

理念に立ち、農地の再生を図ると共に有畜農家の堆肥処理及び有効活用方策として土づくりに活用することを検討し、高品質堆肥製造施設を建設。

（２）地域の家畜飼養状況

	肉用牛	乳用牛	養豚	採卵鶏	計
戸数（戸）	877	32	1	7	917
頭羽数（頭、羽）	5,822	295	X	74	6,191

（平成１７年２月１日現在　農林業センサンス）

（３）利用畜産農家の家畜飼養状況と原料ふん等の搬入量（平成１９年度実績）

区分	酪農	肥育牛	繁殖牛	養豚	植物残渣
利用畜産農家数	３戸	８戸	22戸	１戸	2戸
利用家畜頭羽数	75頭	900頭	400頭	400頭	―
家畜ふん搬入量	1,249t	3,512t	860t	86t	36ｔ

（４）施設概要

①敷地面積　16,393㎡

②設備　発酵処理棟１（2,484㎡）　製品貯蔵棟２（960㎡）
製品籾殻併設棟１（252㎡）　原料籾殻棟１（200㎡）
格納庫１（82.4㎡）
トラックスケール１（10t用）他

③車両　ホイルローダ２（バケット１㎥）
回転フォークリフト１（2.5ｔ）
ダンプトラック２（3.35クレーン付１、2t1）
マルチブロア１（２次発酵攪拌）
自走マニアスプレッタ３（2.5t キャビン・クレーン付）
コンポキャスタ６（350kg）

④処理能力　２０ｔ／日（原料）＋籾殻（水分調整材）２．４ｔ

⑤処理方法　加圧混練装置＋スクープ方式、オープンロータリー方式による攪拌発酵

（４）堆肥生産販売実績

区　　分	バ　ラ	フレコン（400kg詰）	袋詰（16kg詰）
販売量	896t	1,287t	119t
販売価格			
畑作用	8,750円／ｔ	8,750円／袋	550円／袋
水稲飼料作用	7,750円／ｔ	7,750円／袋	450円／袋

（５）施設等利用料金（税別）

・堆肥処理料（ｔ当り）４００円
・マニュアスプレッタ利用料（１日当り）１０，０００円
・コンポキャスター利用料（１日当り）５，０００円
・運搬車利用料（１日当り）５，０００円

（６）堆肥センター運営上の留意点

① 堆肥の品質向上と製品の確保及び水分調整材確保
② 収支の均衡化
③ 利用面積の拡大に向けた土づくり運動の定着化と散布体系の構築
④ 販売の季節分散と販路の拡大

（７）堆肥センター運営上の課題と解決方針

岩手江刺農協は、当施設を江刺型農業の発展にとって重要な施設であると位置付けている。関係機関の支援を受けながら、一つ一つの課題を解決し、堆肥利用者等の評価を受け、より良い施設にすることが重要である。そのためにも、関係機関や関係部署と一層の連携を図り運営していくことが重要である。

６　考察

コメコンでもみられたように、高山市は米づくりに力を注いでいる。米の食味を維持させるため、産地づくり事業の中で、必ず堆肥（含む生堆肥）を利用促進するように、全農家が利用する必要がある。

そのためには、原料ふんの水分等の管理から良質の堆肥の生産が出来る設備が必要である。肉用牛・乳用牛・養豚・採卵鶏等のふんを総合的に処理することで環境の整備にも繋がる。

水分調整（比重調整）に副資材としてオガクズが有効ではあるが、非常に入手しにくくなっていることから籾殻を利用していることには驚いた。籾殻なら沢山あるので良い副材料と思う。

完成した堆肥も素晴らしいものであることから、田・畑の土づくりになり、機械の貸し出しもあることから、高山の農家でも可能であると考える。